令和3年度京田辺市及び同志社大学・同志社女子大学連携研究事業研究概要一覧

研究テーマ	大学名・学部	研究者名	研究概要	備考
住民にやさしい情報発信のあり方とは？－外国人住民の目線から公共の文書・サインを考える	同志社大学 グローバル・コミュニケーション学部	須藤　潤　准教授	ポストコロナの世界は、グローバルな人材の移動が再び活発となり、留学生や労働者など、市の外国籍人口もさらに拡大することが予想される。 そういった中、外国人はもとより、広く住民にもやさしく、理解されやすい日本語での情報発信のあり方について考えるべく、公共の文書・サイン（案内看板・貼り紙等）を、日本語を母語としない外国人住民の目線で調査・検討を行う。 具体的には市内や市のウェブページにある文書サインのうち、住民一般を対象とした公共性の高いものを収集する。 そして、数名の外国人留学生に聞きとりを行い、広く情報へのアクセスのしやすさの観点から、文書サインを評価するための基準を策定する。 その上で、より多くの外国人住民を対象に上記基準をもとに質問紙法で評価を求め、評価の高いものと低いものの特徴について分析を行い、評価の高い文書・サインの持つべき特徴について検討を行う。	
COVID-19感染リスク下における京田辺市と京都府の効果的な連携に関する研究	同志社大学 政策学部	野田　遊　教授	COVID-19パンデミックにより、市や府下市町村、京都府においては従来なかった事務が増え、これまでとは異なる意思決定プロセスが追加され、住民や事業者対応についても従来とは異なるものが求められるようになった。 日本全国の自治体にあっては突然の環境変化に直面し、自転車操業的に今日まで自治体運営を継続してきた側面も否めない。 こうしたことから、いかなる事務やプロセス、住民対応が、京田辺市と京都府で追加され、そのような連携上の課題が露見したかを再整理するとともに、京田辺市と京都府の効果的な連携について検討を行う。 研究では、保健医療分野と商工労働分野を中心に可能な範囲で分野ごとに、COVID-19で従来から変化した庁内の事務処理と市民への対応の実情を把握した上で、以下の三点を鮮明にする。 ①COVID-19感染予防に向けた京田辺市の役割明確化 ②COVID-19感染予防に向けた京都府の役割明確化 ③京田辺市と京都府の連携上の課題の導出	
密集を防ぎつつ人と人をつなぐ「集団オンラインウエルネスダーツ対戦システム」の構築	同志社大学 スポーツ健康科学部	竹田　正樹　教授	これまで、ウエルネスダーツが高齢者の認知機能の改善に有効と考え、高齢者におけるウエルネスダーツ習慣が認知機能に及ぼす効果について研究を行ってきた。 新型コロナウイルスの影響で、活動の自粛が続く中で、ウエルネスダーツをオンライン化し、少人数で1会場に集まり、それが複数の会場に渡ってインターネットを経由して開催されるシステムを構築する。 それによって、3密を防いだウエルネスダーツの開催の実施を可能とし、人と人との対面で繋がりを重視した運動実施形態が閉じこもりや独居を回避できるようになり、社会的及び精神的フレイルの予防に繋げる。 また、京田辺市で実証実験を実施し、有効性を立証するとともに、問題点を改善し、よりスムーズで臨場感のあふれるシステム構築を目指し、その後、全国に発信することを視野に入れている。	